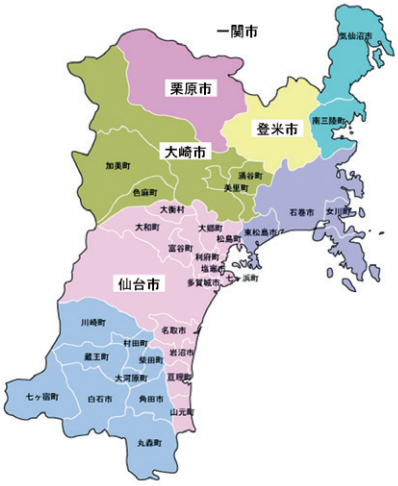
東北職業能力開発大学校における新たな高大連携の取り組みについて

東北職業能力開発大学校　学務課

1．はじめに

東北職業能力開発大学校（以下，当大学校という）は，宮城県の県庁所在地である仙台市から北に約70㎞の栗原市に所在し，最寄りの駅は，東北新幹線のくりこま高原駅および東北本線の瀬峰駅で，また東北自動車道路の築館インターチェンジが近くにあります。



栗原市の面積は約800㎢（県内第１位）で，市の南部は大崎市，西部は登米市，北部は岩手県（一関市）と秋田県に隣接し，南北に長い東北地方を南東北，中東北，北東北に分けると中東北に位置しています。就業人口構成は第１次産業17％，第２次産業35％，第３次産業48％で，県内全体の割合と比較して，第１次産業，第２次産業の比率が高く，隣接する大崎市，登米市とともに宮城県北部の穀倉地域を形成しています。

写真１　栗原市の田園風景

宮城県の特徴の１つとして，県人口の約65％が仙台市および近郊（以下，仙台圏という）に集中し，各市町村から仙台圏への人口の流出に歯止めがかからないことで，栗原市の人口は約7.33万人（県内第５位）ですが，県北部で最も人口減少率が高い市でもあります。

2．これまでの高大連携の取り組み

これまで当大学校では主に宮城県北部，東部の県立工業高校３校および栗原市内の県立高校２校を主な対象として，技能検定関係，技術・技能に関する出前授業，施設見学等，授業指導に関する教員交流など，個々の高校からの依頼に応える形で連携していました。連携の多くは教員が学生募集の一環として高校を訪問した際に要望され，内容や日程を調整しながら実施していくものでしたが，徐々に少子化，ものづくり離れ，中高生の都市部への進学などの影響を受け，各種高校の統廃合により総合学科等を併設する普通高校も増え，工業高校のみならず普通高校との連携も増えてきたところです。

写真２　高大連携（技術技能研修）の様子

３．高校訪問，企業訪問のなかから

昨年度，施設長等を中心に，これまで当大学校への入校者が比較的多い県内の高等学校を対象に訪問（いわゆるトップセールス）を行いました。

その結果，仙台圏の高校を除いた県南部や県北部の高校の多くは，少子化に加え，中学校を卒業し仙台圏の高校へ進学する生徒が年々増加し，定員の確保が難しくなっていること，さらに，高校卒業後も仙台圏や関東の大学や専門学校等へ進学や就職するなど，若者が地元に残らず都市部へ流出している現状がわかりました。

さらに，当大学校が所在する栗原市においても，少子化や人口流出による小・中学校の統廃合が進むとともに，市内の中学校を卒業しても市内の高校に進学せず，隣接する大崎市や仙台圏の高等学校へ進学するケースも増えて，市内の高校の定員充足率が下がり，さらなる高校の統廃合が懸念されています。

一方，事業主支援のニーズ把握の一環として，県北部の事業主等を訪問するなかでは，地元で育った優秀な人材が仙台圏や関東へ流出し，地元の企業に就職する若者が年々減少し，経営者の多くが，将来の人材確保・経営に危機感を募らせているとのことでした。

４．高大連携の模索

施設長等と栗原市内の県立高校を何度か訪問するうちに，栗原市内の県立高校４校による「栗原市内県立高等学校長会」が組織されていることを知りました。幹事校（宮城県築館高等学校）の校長と懇談し，当大学校における産業人材育成と栗原市内の高校における教育について意見交換を重ねたところ，互いにそれぞれの役割・機能について理解を深めるなかで，高校生のキャリア形成を含めた進路（進学，就職）について連携・協力することの重要性について認識するようになりました。

さらに，栗原市内の小学校，中学校，高校，特別支援学校および教育関係者で構成されている「栗原市学校教育連絡協議会」も運営され，「地元の子供達を地元で育てよう」の掛け声のもと，小学校，中学校，高校間の接続教育の充実を図る検討・議論も行われていました。

一方，当大学校においても，企業訪問するなかで，地域産業界から求められる産業人材（学生像）の育成，当大学校における教育訓練内容の充実，産業人材育成の地域の拠点の大学校として，地域の事業主の要請を受け，産業人材の育成を通した地域産業の活性化および当大学校の教育訓練の充実・活性化を図る試みも動き始めていました。

５．新たな高大連携の枠組み

昨年度１年間をかけて，当大学校の特徴を生かした高大連携のあり方を模索してきた結果，平成26年３月27日，栗原市内の県立高校４校と高大連携協力協定を締結することができました。

一方，事業主支援の取り組みとして，県北部・東部地域の事業所を訪問するなかで，多くの経営者から，従業員の教育訓練による能力向上や中核的な従業員の育成の工夫のみならず，地元の優秀な学生を地元に定着させる工夫も必要との声も多く寄せられ，県北部・東部地域の事業主，教育機関，行政機関を構成メンバーとし，教育訓練の充実と地域産業

写真３　高大連携協定調印式

写真４　第１回教育研究振興会開催

の活性化を目指した「教育研究振興会」が，当大学校を事務局として，平成26年５月15日に設置されました。

これにより，従来の技術・技能を中心とした高大連携から，地域の学校および事業主の現状，課題を踏まえながら，各学校間および企業との接続および教育訓練の充実を重視した新たな高大連携の枠組みが構築されました。

地元の子供達を地元で育てるという地域の教育機関および関係者と，優秀な生徒・学生を流出させることなく地域に定着させたいという地域産業界の期待に沿った多様な取り組みが見えてきました。

６．今年度の高大連携活動状況

高大連携の活動に当たり，各校長で構成する連携強化推進会議および各校の実務担当者による担当者会議を設置して，高大連携協力を推進することとしています。

今年度に入ってから具体的な取り組みが始まり，５月に第１回連携強化推進会議と第１回担当者会議を同時に開催し，今年度の連携協力の基本的な考え方について意見交換が行われました。

７月には第２回の担当者会議を開催し，各校の連携協力取り組みプランを持ち寄り，具体化に向けた検討がなされ，現在，以下の連携協力内容について取り組んでいます。

○技術・技能研修（木材の継ぎ手（講義、製作、強度試験））

５、７、10月　合計３日間

写真５　高大連携（技能研修）の様子

○One Day College（建築設計実習）

９月　２時間

写真６　高大連携（One Day College）の様子

○上級学校調査研究活動の受け入れ（生産技術・住居環境科）

10月　１日間

○技術・技能研修（電気工事競技会強化指導）
　10月　４時間
○技術・技能研修（３次元ＣＡＤ指導）
　12月，１月予定　３日間
○保護者見学会受け入れ（２校）
　７月

写真７　保護者による施設見学会の様子

○当校学園祭への参加（商品開発・販売）
　７月　１校
○高校文化祭への参加（展示・実演・体験）
　８月　１校

写真８　学園祭・文化祭交流の様子

10月には第３回の担当者会議を開催し，今年度上半期の連携協力状況の整理，課題の検討および後期における各校の連携計画，ポリテクビジョンにおける連携，インターンシップにおける連携協力等について意見交換し，各校の情報を共有化しながら連携協力の推進を図っています。

７．高大連携協力の広がり

栗原市内県立高校との高大連携事業の取り組みは，保護者による施設見学会やクラス単位の施設見学会など，栗原市以外の高校との連携協力も広がってきており，保護者による大学校訪問では，見学後に「地元に設備が整った教育機関」として，大きな驚きを持って受け止められ，高等教育機関としての理解を得つつあります。

また，12月には「高大連携事業」と「教育研究振興会」を結び付け，宮城県が主催となって，地元企業，栗原市内の県立高校，当大学校及び栗原市の行政機関（産・学・官）による，小学生高学年から中学生を主な対象として，科学を五感で体験する「サイエンスプラス」を当大学校で開催する予定です。

さらに，学生募集の一環として開催しているオープンキャンパスでは，栗原市内の県立高校からの参加延べ人数が昨年度と比較して約1.6倍に増加するなど，高大連携の取り組み効果が表れつつあります。

写真９　オープンキャンパスの様子

８．終わりに

栗原市内の県立高校との高大連携に取り組み始めて間もなく１年が経過しますが，複数の高校と連携・協力協定の締結により，年間を通した計画的な高大連携の取り組みが可能となりました。

今後，当大学校の特徴を生かしつつ，教育と産業を結び付けながら，少しでも地域社会の発展に貢献できる高大連携に発展することを願っています。

さらに，宮城県の仙台市以北から岩手県の盛岡市以南の地域において，唯一の工科系４年間の高等教育訓練機関である当大学校の当該地域に対して果たす役割は大きいものと考えています。